

蝶の翅たたためば模様かさなりぬ

藤田湘子

目の前に蝶が止まっている。何という名の蝶だろう。きれいな模様がある。その色や形に見とれてみると、ゆつくり翅が動いた。飛び立つのかと思うと、閉じた翅がまたひらく。閉じたり開いたり、羽をたたむと左右にある同じ模様がぴつたり重なった。小さな発見だが作者の喜びは大きい。そして読者の私は、造化の不思議に改めて思いを馳せる。

考えてみれば蝶ほど造化の不思議を感じずるものもない。兜虫も天道虫も樹木も木の葉も、思い出してみると自然界には左右対称の美の何と多いことか。古代エジプトに始まり中国の陶器など芸術の美にも左右対称のものが多いが、自然の美に端を発しているのだろうかと思う。

1997年 (1997年) 第十句集『神楽』 鑑賞・野本京